

4-1 シナリオ1「友達から仲間外れにされた」

p.22-25では、4つのシナリオ「1)友達から仲間外れにされた」「2)友達とけんかした」「3)親しい周囲の人が引っ越していなくなってしまった」「4)家庭内で辛いことがあった」のうち2つ以上を選んで回答してもらった結果を紹介している。

このシナリオを選んだ保育者は、ひとりぼっちになりがちな子どもが友達関係を構築できるように子ども同士をつないだり、子ども同士の交流を促す活動を行ってサポートしていた。また、実際に仲間外れのトラブルが発生したときには、①仲間外れにされた子どもの気持ちに寄り添う、②相手とのコミュニケーションを促す、③気持ちを切り替えて次に進めるよう促す、④クラス全体に共有して考えさせる、などの対応を行っていた。



レジリエンスのスキルに関連するシナリオをご紹介します。「保育者としてどう関わるか」「それはなぜか」を教えてください。

→ 1) 友達から仲間外れにされた(仲間に入れてもらえなかった)



ひとりぼっちになりがちな子どもが友達関係を構築できるように行うサポート

1

子ども同士をペアにする、
他の子どもとの共通点を見つけるなどを通して
子ども同士をつなぐ

『ひとりぼっちになりがちな子ども』を、社会情動的スキルとレジリエンスが高い子ども(中略)1人か2人とペアにして、その子を助け、導いてもらうようにする」

(マレーシア⑤、公立、保育者、保育経験16年)

「他の子どもたちと共通の素質を見つけ、子ども同士をつなぐようにしている」

(フィリピン④、私立、保育者、保育経験15年以上)

2

ひとりぼっちの子どもに注意しながら、
子ども同士の交流を促す活動を行う

「グループ活動を企画し、(中略)子どもたちの交流とコミュニケーションを促進する。この過程で、仲間外れにされた子どもに特別な注意を払い、特別な励ましとサポートを与え、集団に溶け込めるようにする」

(中国⑨、公立、保育者、保育経験5年)

「仲間はずれにされた子どもが仲間に入れてもらえるよう、いろいろなグループ活動を活用している。(中略)例えば、その子どもをグループリーダーに任命し、他の子どもたちをそのグループに参加させ、協力し合わなくてはならない状況をつくる」

(台湾⑧、公立、保育者、保育経験30年)



仲間外れのトラブルが発生したときの対応

1

仲間外れにされた子どもの気持ちを
理解する・寄り添う

「伝えたいことは『大丈夫』という言葉。

子どもはまず自分の感情に向き合う。私たちは『今、どう感じてる?』と話しかけ、子どもが自分の気持ちを表現できない場合は、『混乱してるよね、わかってるから大丈夫だよ』と話しかける。あるいは『今はどう思う? 別の子と遊ぶ? それとも、しばらくしてからもう一度その子に遊びたいって言う?』と尋ねる。その子どもが『自分はひとりぼっちじゃない、先生が自分の気持ちをわかってくれている』と考えるのであれば大丈夫だと思っている」

(シンガポール②、公立、園長、保育経験13年)

2

仲間外れにした相手とコミュニケーションをとり、
理由を確認するよう促す

「相手には相手の思いや理由がある。それを聞くと仲間外れにされたのは結果でしかない。相手の立場に立って考えること、自分の状況を理解するために自分がどう行動することができているかを感じてほしい。(中略)一人で聞けそうになければ、一緒に聞きに行く」

(日本③、国立、保育者、保育経験19年)

4

クラス全体に状況を共有する、
ソーシャルストーリーを読むなどを通して
考えさせる

「その後にクラス全体に、あったことを共有。個人名は挙げずに、(中略)子どもたちがどう思ったか、意見や感情を聞き、『もし仲間外れにするのではなくて、違う時に遊びたかったのならどう答えたらいいのか』クラス全員で考える」

(日本②、私立、保育者、保育経験3年)

「ソーシャルストーリーを読み聞かせる。仲間外れの問題には注意深く取り組んでいる」

(フィリピン②、私立、保育者、保育経験5年未満)

3

気持ちを切り替えて次の遊びを見つけにいたり、
別の子と交流するよう促す

「一回話はするけど、どうしても入れてもらえなかったら、固執せずに切り替えて、次に進めるように話をしたり、次の遊びが見つかるまで一緒にいかかわったりしている」

(日本⑪、公立、保育者、保育経験12年)

「他の子どもたちと交流し、新しい友達を作り、社交の輪を広げるように促すことが大事だと思う」

(台湾②、公立、保育者、保育経験27年)



4-2 シナリオ2「友達とけんかした」

このシナリオを選んだ保育者の多くが、一般的な流れとして5つのステップに集約できる共通のアプローチをとっていた。ただし5つのステップそれぞれにおける具体的ななかかわりについては、様々な方法が語られた。またそれ以外にも、将来に備えて、同じような状況が発生したときの対応方法やけんか回避の方法などを、子どもたちと一緒に考えるアプローチが語られた。



レブリエンスのスキルに関連するシナリオをご紹介します。「保育者としてどう関わるか」「それはなぜか」を教えてください。
→ 2) 友達とけんかした



発生時の一般的なアプローチの流れ

以下の1～5のステップが、8か国・地域の全てにおいて語られた。

1

けんかをやめさせて子どもたちを落ち着かせる

子どもの気持ちを落ち着かせるためには様々な工夫が行われていた。

- ・「『攻撃的な』子どもに1分間のタイムアウトを与え、気持ちを落ち着かせる」(マレーシア②、私立、保育者、保育経験12年)
- ・「気持ちを落ち着かせる場所に連れていく」(シンガポール①、私立、施設長、保育経験18年)
- ・「お気に入りの活動をするよう促す。たとえば、花を飾る、机の上をきれいにする、バナナを切るなど、美的要素を含む日常的な活動を促している」(タイ①、私立、園長、保育経験10年)

2

けんかした子どもたち双方の意見を聞いて状況を理解し、中立的な立場で介入する (けんかを見ていた周りの子どもたちにも状況を確認する)

3

子どもたちが相手の気持ちを理解するよう援助する (子ども同士で何が起こったかを話し合わせ、気持ちを伝え合わせさせるなど)



4

解決方法を保育者が提案する／子どもたちに考えさせる

サークルタイム等を利用して、けんかの当事者だけでなくクラス全体で問題を共有し、他の子の意見を聞いて自分を振り返り、解決策を共に考える方法も、実践事例として語られた。

5

互いに謝って仲直りするよう促す

お互いに謝ってきれいに終わらせなくてもいい、謝罪せずとも適切なクロージングがあればよい、などの事例もあった。

また、そもそも保育者が介入するかどうかに関して、可能な限り子ども同士の解決に任せている事例（保育者はまず状況を観察してあまり介入しない、子どもの年齢や時期により必要に応じて仲介するなど）が複数国で語られた。

さらに、保育者が介入する前に、年上の子どもがまず介入する事例が、台湾の実践として語られた。



将来に備えたアプローチ

将来に備えて、同じような状況が発生したときの対応方法や、けんか回避の方法などを、子どもたちと一緒に考える

- ・「今後また似たような状況が起こったら、どう対処するかをブレインストーミングして一緒に考える」(台湾②、公立、保育者、保育経験27年)
- ・「けんかをした両方の子どもに(中略)どうすればけんかを避けることができるか尋ねる。一緒に解決策を考え、決めたことについて責任をもたせる」(タイ②、私立、園長、保育経験12年)

4-3 シナリオ3 「親しい周囲の人が引っ越した」

このシナリオを選んだ保育者の多くは、子どもの情動へのアプローチをとっている。例えば、喪失感や不安に直面している子どもの話をまず聞き、気持ちを受け止めている。また、今の感情を理解できるような声かけをすることで「悲しみ」という感情を教えている。感情に向き合うだけでなく、離れていても関係を保つ手段を教えたり、新しい友達と関係性を築けるよう導くアプローチもとっている。



レジリエンスのスキルに関連するシナリオをご紹介します。「保育者としてどう関わるか」「それはなぜか」を教えてください。
→ 3) 親しい周囲の人(大好きな先生や仲良しの友達など)が引っ越していなくなってしまった



子どもの情動へのアプローチ

1

子どもの気持ちを受け止め、共感する

「子どもの気持ちに寄り添い、理解するアプローチをとっている。会話を通して、仲良しの友達との別れに直面した子どもの気持ちを理解しようと努める。たとえば、今の自分の気持ちや友達との思い出、変化に向き合うには2人でどうしたいかなどを話してもらう。(中略)子どもの気持ちを理解し、受け入れることで、子どもが変化に対処し、感情のレジリエンスを育てる手助けをする」
(インドネシア⑨、私立、園長、保育経験20年)



2

子どもにお別れの意味や、その背景にある感情の理解を促す

「まず、子どもたちに引っ越しの意味を理解してもらう。引っ越しは仲良しの友達と別れることを意味する。そうすることで、子どもたちは『別離』に対処するための土台を築くことができる。理解してもらった後は、子どもたちが『別離』という経験をどう表現するかを観察する。クラスの中に友達と別れる悲しみを想像することができる子どもがいるようであれば、共感力の高い子どもに自分の内面を話してもらうようにする。『別離』の意味を理解できない子どもには、絵本などを使って別れの背後にある感情を理解させ、その感情と向き合えるようにする。そして引っ越していく友達との友情を維持していく方法について事前に考えてもらう」
(中国⑩、公立、保育者、保育経験6年)

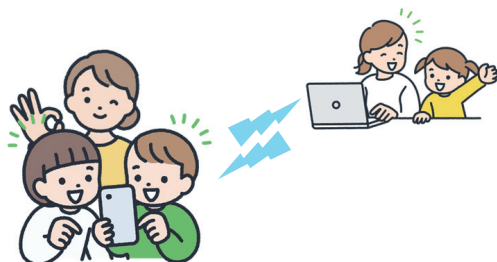


子どもの行動へのアプローチ

1

友達や先生と関係を保つ手段を教える

「人気者のクラスメートが引っ越してから1週間、子どもたちはその友達に会いたくてしかたないと頻繁に口にし、ビデオ通話で話すことを提案してきた。私はその子の母親に連絡し、適切な時間にビデオ通話ができるよう手配した。子どもたちは引っ越した友達の顔を再び見ることができ、とても興奮していた。このビデオ通話を2週間で3回行った後、子どもたちは友達が大丈夫だと知って喜び、満足した」(マレーシア②、私立、保育者、保育経験12年)



2

新しい関係性を築けるように導く

「保育者は子どもの安全地帯である。保育者はバディとして子どもをガイドし、新たな友達になれそうな子どもと一緒に活動するよう導く。子どもが他の子どもたちと新たな友情を築けるよう手助けし、同時に子どもの好ましい行動を褒めることにより自信をもてるようにしている」
(タイ①、私立、園長、保育経験10年)



4-4 シナリオ4「家庭内で辛いことがあった」

このシナリオを選んだ保育者は、子どもの様子がいつもと違うことに気づき、子どもの気持ちに寄り添いながらかかわっている。気持ちを落ち着かせて、自分の状況や考えを伝えることができるようになったら、起きた出来事の背景や理由を探り、今後どのように対応すればよいかを考えられるように手助けしている。



レジリエンスのスキルに関連するシナリオをご紹介します。「保育者としてどう関わるか」「それはなぜか」を教えてください。
→ 4) 家庭内で辛いことがあった(親に叱られた、親同士のけんか、家庭内の雰囲気が良くないなど)



親に叱られたケースへの対応

このシナリオを選んだ保育者の多くは、次のようなステップで対応していた。

1

子どもの様子がいつもと違うことに気づき、優しく話しかけながら子どもの気持ちに寄り添う。子どもが落ち着くと、何があったのかを尋ねる。

- ・「まず、その子が普段から興味をもっているおもちゃを与え、話しかけることで悲しい気持ちを和らげるように努める。(中略)保育者は子どもの気持ちをまず落ち着かせてから話しかけるようにして、効果的にコミュニケーションをとる必要がある」(中国⑤、公立、園長、保育経験22年)
- ・「状況を理解していることを示すことで、愛情を求める子どもに応える。子どもが些細なことで悩んでいるときは、否定的な言葉に敏感になりがちなので、優しく話しかけるようにしている」(日本②、私立、保育者、保育経験4年)

2

親が叱った理由を探り、子どもがとった行動がよかったかどうかを尋ねる。
今後はどのように行動すればよいかを考えられるように手助けをする。

台湾の事例では、父親が直面している大変な状況を理解させ、父親の気持ちへの共感を促している。また、どのように父親を手助けできるかを考えられるように支援している。

【子どもと保育者の会話例】 (子=子ども、保=保育者)

子：お父さんに怒られたの(涙を流す)。

保：それでとても悲しそうにしてるのね。

子：うん。

保：お父さんはなんで怒ったのだろうね？

子：私たちみんなのろのろしてて、お父さんが遅刻しそうだったから。

保：お母さんはおばあちゃんのお世話をしているから、お父さんが一人であなたたちの面倒をみているんだね。お父さんは大変だね。

子：うん、お父さんはごはんを買いに行ったり、私たちをお風呂に入れてくれたり、お洗濯までしているの。

保：じゃあ、お父さんはお仕事に行くだけでなく、他にもいろいろやらずにちゃいけないのね。それはとっても大変だね。お父さんを手伝ってあげてる？

子：うん、着替えは自分でしている。

保：いいお姉ちゃんだね。じゃあ、こんどは朝早く動くために何ができるかな？

子：妹が靴下をはくのを手伝って、かばんを取ってきてあげる。

保：そうしたらお父さんはすごく助かるね。まだ悲しい気持ちがしてる？

子：ちょっとだけ。先生、ぎゅっとしてくれる？

保：もちろん。

「子どもが悲しい出来事の原因を認識し、他者(父親)の気持ちに共感できるように手助けする。父親の大変さを徐々に理解し、どうすれば手伝えるかを考えるよう促し、考えついたことを認め、褒める。自分だけでなく他者のためにも判断を下す力を養い、フィードバックを活用して個人的な成長を促進する」(台湾④、公立、保育者、保育経験34年)